



〔 私たちの目ざす道しるべ Well-being(ウェルビーイング) 〕
 ～ 幸せになろうね！ 幸せになろうよ！ ころもからだもみんな！！ ～

私は半世紀以上も長い間、この人間教育に携わってきて私たちのこの仕事にもっとも大切なことを見つめました。それは「人の成り立ち期の歩みのはじまり」は愛された育ちであり、だきしめ言葉(愛情ホルモン・オキシトシン、幸せホルモン・セロトニン)という脳内ホルモンが分泌され「自分」という存在(自分がそこに確かに存在しているという実感)が生まれてくる、という事実です。そこに確かに「自分が在る」ということです。

私たちの仕事の役割をふり返って見ると、生命を授けられた胎生期から親の出産までのご苦労に対して「いたわりの言葉」を伝えることから始めなければなりません。

しかしこの仕事を通して私は出産の時の「オギャー」と泣いて肺呼吸を授かったヒトの誕生、新生児から向きあうべき「人の成り立ち期の歩みのはじめ」を知った時、大切なのは生まれて間もなく親との対面の時、「表情・仕草・態度・天使の微笑み」を通してコミュニケーション(serve&return)が行われていたという現実を知った時でした。

それから次に行われていたコミュニケーションは感情(Feeling)喜怒哀楽と情動(Emotion)ビビリ(恐れ)ムカムカ(不機嫌)イライラ(嫌悪)シンパイ(不安)に対してServe & Return(やりとり・受けこたえ)が心地よく応答をくり返してなされていたという事実でした。

そしてそれらは「生きている喜び、自分が好き」という存在を確認し「生まれてきてくれてありがとう！ 生まれてきて良かった！」につながるのです。それらが「人間の生きる」につながる基盤(根)になっていると思うのです。

そして併せて畏怖・畏敬(偉大なる自然を恐れ敬う心)を持ってすべてのものに「ありがとう(感謝)」の心を育てながら「自己肯定感の中でいわれる自己受容感(自分の存在を高め、認められるヒト)」ひとりできる」という自分を信じられるヒトを創り始めるのです。

改めて私の考える「人間学と人間科学に基づく人間教育」とは生命を授けられた新生児の誕生(存在・在る)から始まっていると確信しました。



笑ったかす一番 だっこされたかす一番 やさしくされたかす一番
 遊んだかす一番 でかけたかす一番 チャレンジしたかす一番

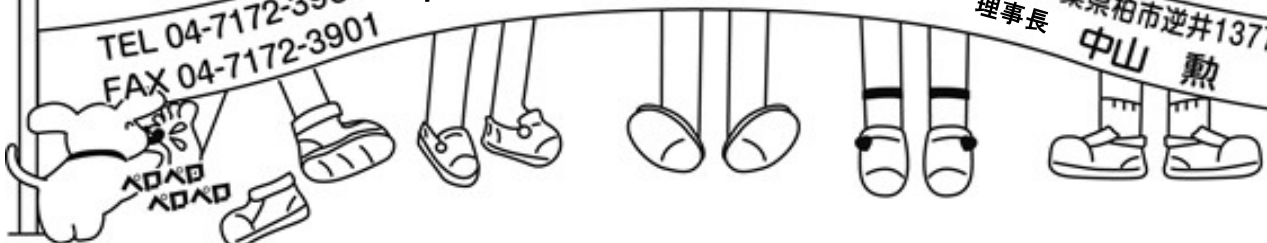


E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

社会福祉法人 童心会

TEL 04-7172-3939
 FAX 04-7172-3901

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
 理事長 中山 勲



そして私たちヒトは、天意によって授けられた五感を活用しはじめるのです。そうです。私たち(社福)童心会の人間教育の原理「五感を刺激する0歳からの人間教育」がはじまるのです。仏教ではそれをさらに広げて六識(眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識)を通して学びはじめるといっています。そして私たちの人間教育は五感(六識)を通して「興味・関心・好奇心」を身につけ憧れや模倣を通して学びはじめます。

学びのはじめ

見て倣い 観せて学び
聞いて考え 聴かせて習う
触れて知って 触って記憶する
風に香りを嗅ぎ 五味・五色・五感で 四季を味わう

1996年、乳児たちが視覚から学ぶミラーニューロンが発見され、2000年頃には聴覚によるミラーニューロンが発見されると認知発達の科学的エビデンス(根拠)が実証したのです。(ミラーニューロンとは、ボールを投げている人の動きを見るだけで、自分がボールを投げる時に使う機能が活動していること)

そしてさらに私たちの乳幼児からの人間教育は、運動会やX'mas生活発表会などの保育園の行事だけでなく、日常生活の中での五感の刺激的な影響を強く受けながら「やる気(意欲)げん気(気力)ほん気(意志)」が生まれ、それらを脳科学では脳内ホルモン”ドーパミン(やる気ホルモン)アドレナリン(チャレンジホルモン)”と説明しています。それを卒園生の子どもたちは「やる気・げん気・ほん気が生まれた運動会」という言葉を”日めくり語録”の中に残していったくれたのです。

そして最後に毎日毎日子どもたちと学び確認し合っている大人になっても忘れてはならない”私たちの三つの約束”です。「がんばること(体の力)つづけること(学ぶ力)がまんすること(心の力)」を育むことが開園当初から言い続けてきた行動の指針(モットー)となる訓えです。この言葉は”私の人生訓”として唱え続けてきた訓えなのですが、あるとき東洋思想の本を読んでいた時、その中に”体力・生命力・精神力”という言葉が書かれていました。昔から伝えられていた言葉で”からだ・いのち・こころ”を育み続けることの大切さを教えている言葉であると再確認し、心強く思ったことを今、思い出しています。

さらに私たち(社福)童心会の訓えは続きます。

私たちの”道しるべ Well-being 幸せになろうね！ 幸せになろうよ！”とは「自分自身の人間性を高めていくこと」なのです。”子ども真ん中”ではなくて”自分真ん中”にして”自分を愛するように人を愛すること”につなげてゆくことなのです。

それが私たち(社福)童心会が創り続けている理念(哲学)

”自分を創る・人を創る”～人として如何に生きるべきか～になったのです。

そして自分を創る訓えとは次のような考え方になりました。

人間としての生きる心得(新しい時代の無財の七施)

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|--------------------|
| 1)笑 顔 | 朝からとびっきりの笑顔でおもてなし | 5)傾 聴 | やさしい眼差しで話に耳を傾けること |
| 2)挨拶 | 思いやりが心にひびくご挨拶 | 6)共 感 | 共にある心、共に喜び、共に悲しむ心 |
| 3)思いやり | すべてのものによりそう心 | 7)受 容 | あるがままをあるがままに受け入れる心 |
| 4)感 謝 | いつもありがとうの心を忘れない | | |

最後に基礎物理学の理論の中で宗教の世界で執り行われている”お勤め(勤行)”「願いと祈り(祈祷・祈願)」は確実に現実に叶えられるものであると実証されたのだそうです。だから心は心に届くはずなのです！未来ある子どもたちや保護者である養育者の皆さま、そして保育者仲間や地域社会の皆さまの”ふれあいや見まもり”に感謝しながら”Well-being 幸せになろうね！ 幸せになろうよ！”と皆さまのために祈り、願い続けなければなりません。

皆さまのいつも変わらぬご協力に感謝します。お幸せに!!

令和6年 11月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲